

地域看護学方法論

責任者・コーディネーター	地域包括ケア講座 岩渕 光子 教授		
担当講座・学科(分野)	地域包括ケア講座、看護専門基礎講座		
対象学年	3	区分・時間数	講義 12時間
期 間	前期		
単 位 数	1単位		

・学修方針（講義概要等）

地域における看護活動を行うための方法である家庭訪問、健康相談、健康診査、健康教育、グループ支援および地区組織活動の育成について、その目的、対象および技術を学ぶとともに、企画、実施および評価について学修する。これにより、対象者の特性に応じた支援方法を考える能力を修得する。その上で、地域における医療、保健、福祉、住民組織およびNPO等との関係を理解し、地域包括ケアシステムを構築するための知識を学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

地域における看護活動の方法を学修しそれぞれの特徴を理解することにより、地域住民の健康課題に対応した活動方法を考えることができる。また、地域の健康課題を解決するための地域包括ケアシステムの構築について理解できる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマポリシー：4, 7, 8

・到達目標（SBO）

1. 個人のライフスタイルについて健康の側面からアセスメントする重要性について説明できる。
2. 地域や家族等、固有に受け継がれる生活習慣の多様性について理解できる。
3. 予防が必要な対象者（個人、家族、集団等）の強み（ストレングス）を引き出し、健康増進、自立の促進等を目指した看護を実践できる。
4. 対象者の行動変容に対する理解、関心や動機付けの状況についてアセスメントを行い、必要な看護を実践できる。
5. 地域における保健活動の展開方法の特徴が説明できる。

・ 授業日程

(矢) マルチメディア教室

【講義】

月日 (曜) 時限	講座(学科) 担当教員	授業内容/到達目標
4/11 (火) 2 限	地域包括ケア講座 岩淵 光子 教授	<p>地域住民の健康課題に応じた活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保健指導の目的、対象を理解し、保健指導の種類が説明できる ・ 保健指導が行われる場や方法の特徴を理解し、対象者の状況に応じた個別指導と集団指導の選定について説明できる ・ 保健行動の特性と行動変容の基礎となる理論の特徴を説明できる <p>事前学修：教科書 第1章Ⅱ 3、4を読み、行動変容に関する理論を復習しておく</p>
4/24 (月) 4 限	地域包括ケア講座 松岡 真紀子 助教	<p>家庭訪問の目的、対象、技術とプロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭訪問の目的、対象、支援技術を説明できる（訪問看護との違い） ・ 家庭訪問のプロセスを説明できる <p>事前学修：教科書 第3章Ⅰを読んで概要を把握しておく</p>
4/25 (火) 3 限	地域包括ケア講座 松岡 真紀子 助教	<p>健康相談の目的、対象、技術とプロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康相談の目的、対象、場、方法の特徴が説明できる ・ 相談者のタイプを捉え、健康相談のプロセスを説明できる ・ 健康相談を展開する上での留意点が説明できる <p>事前学修：教科書 第3章Ⅱを読んで概要を把握しておく</p>
5/8 (月) 3 限	地域包括ケア講座 赤井 純子 助教	<p>健康教育の目的、対象、企画と評価 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康教育の目的、対象を説明できる ・ 健康教育のプロセスを説明できる ・ 学習目的に対応し、教育方法、教育技術（講義、実習、実験、演習等）の組み合わせを説明できる <p>事前学修：地域看護展開論で学んだ保健活動のうち、健康教育の方法を活用している内容をあげておく</p>
5/9 (火) 1 限	地域包括ケア講座 赤井 純子 助教	<p>健康教育の目的、対象、企画と評価 2（グループワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループに割り当てられたテーマを通して対象のニーズを把握し、アセスメントを行い健康教育の立案ができる <p>事後学修：企画書の検討</p>

5/12 (金) 1限	地域包括ケア講座 赤井 純子 助教	健康教育の目的、対象、企画と評価3（グループワークの発表） ・グループに割り当てられたテーマの健康教育の企画書が作成できる ・他のグループのテーマの発表を通して、対象の捉え方、目標設定の視点、教育方法の組み合わせを振り返る 事前学修：企画書の発表準備をする
5/15 (月) 2限	地域包括ケア講座 松岡 真紀子 助教	グループ支援，地域組織の育成 ・グループ・組織の種類と特徴を説明できる ・グループ支援と地域組織支援の目的と支援プロセスを説明できる ・地区/小地域の人々の健康課題解決のために必要な地域の地域組織との協働について説明できる 事前学修：教科書 第3章Vを読んで概要を把握しておく
5/26 (金) 4限	看護専門基礎講座 遠藤 龍人 教授 地域包括ケア講座 赤井 純子 助教	健康相談演習：個人、家族への支援 ・生活習慣病で治療中の対象者に対して、検査結果と生活習慣の関連を理解できるように、生活習慣病に関する代謝のメカニズムや生活習慣との関連について説明できる 事前学修：グループに割り当てられた対象者からの質問に対して、説明できるように調べる

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	公衆衛生看護学.jp 第5版	荒賀直子 他編	インターメディカル	2020
参	新版 保健師業務要覧 第4版 2023年版	井伊久美子 他編	日本看護協会出版会	2023
参	標準保健師講座2 公衆衛生看護技術第4版	中村裕美子 他	医学書院	2020
参	公衆衛生看護学第3版	上野昌江 他編	中央法規	2021
参	説明力で差がつく保健指導	坂根直樹 他	中央法規	2011

・成績評価方法

定期試験 70%および課題レポート・授業内での課題 30%の合計 100%で評価する。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

シラバスに記載されている授業内容及び到達目標を確認し予習した上で授業に臨むこと。また講義中に提示した予習ポイント・課題を学修して臨むこと。事後学修は、本科目指定の教科書だけでなく、授業内容に関連した履修済の教科書や配布資料、ノート等を用い復習すること。適宜、講義中に事前学修の発表時間を設ける。事前事後学修時間は各回最低 30 分を要する。

グループワークではそれぞれのテーマに沿って事前学修を行い臨むこと。グループワークを行う授業では事前学修は最低 1 時間を要する。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

- ・レスポンスカード等については、次の授業等で適宜コメントを伝える等、学生にフィードバックする。
- ・試験のあとは、WebClass に必要な解説を掲載する。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

保健師（別表 1）：公衆衛生看護学 個人・家族・集団・組織の支援

助産師（別表 2）：助産診断・技術学

看護師（別表 3）：統合分野 在宅看護論

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター（VPL-FWZ60）	1	講義用スライド投影
講義	書画カメラ（P-100）	1	講義用資料投影
講義	DVD（ブルーレイおよび一般 DVD）再生機器	1	講義時資料投影